

## 愛・地球博とあいちモリコロ基金の理念と成果を継承する 新基金（仮称：中部圏地域創生ファンド）構想 Ver2

### 1、名称・趣旨

1) 中部圏において多種多様な資源を集め、中部圏に投入、市民公益活動を支援し、共創力・地域力を向上させ、強固な中部圏をつくるための「ファンド」です。

\* 関東圏は全国的・国際的な「多種多様な」ファンドがあり、関西圏は「大阪コミュニティ財団」がその役割を果たしている。中部圏として民間公益セクター、市民公益活動を育てる、資金循環システムをつくる意味は大きい。

### 2、取組みの経過と背景

1) 愛・地球博の剰余金 13 億円を原資に設立されたあいちモリコロ基金は、2017 年の助成事業をもって終了することから、愛・地球博及びあいちモリコロ基金の理念と成果を記憶継承し、新たな「基金」をつくらうという取組みが進んできました。

2) あいちモリコロ基金は、愛・地球博協会（豊田章一郎会長）の決定を受けて、地元4団体（愛知県、名古屋市、名古屋商工会議所、中部経済連合会）が設立したことから、平成 28 年 6 月 8 日、愛知県は、これらの団体及び学識者とともに、「社会貢献活動支援検討会議」を設置し「新基金」の検討をスタートさせました。

### 3、あいちモリコロ基金の成果

1) 平成 27 年、「基金運営委員会」が、平成 26 年までの助成事業（1288 件・約 9 億円 / 申請件数 2945 件）の成果を調査したところ、①助成を受けた事業や団体の成長、②地域への大きな成果の影響がわかりました。

2) 採択件数に対する申請倍率は、大規模 277 件（倍率 4.3）、展開期 1045 件（同 2.7）、初期 1623 件（同 2.0）で、大規模の方がニーズが高い。

\* 助成は、大規模 500 万円・8 件、展開期 100 万円・50 件、初期 30 万円・100 件。

3) この調査結果もとに、モリコロ基金の成果を継承する「新基金像」を検討するシンポジウムや新基金を作る賛同署名が開始されました。署名は、平成 28 年 8 月末現在、学識者、行政関係者、市民団体など 3078 件が寄せられています。

\* 賛同者及びよびかけ人名簿、署名簿など参照下さい。 <http://www.vns.or.jp/shinkikin.html>

### 4、新基金のイメージ

1) ①南海トラフ地震への対応、②リニア開通により変貌する地域社会への対応、③高齢化や少子化、地域コミュニティの衰退などの社会的な課題への対応が、助成事業の主要なテーマとして想定し、民間公益セクター、市民公益活動育てを目的としています。

2) 支援対象は、非営利部門と営利部門を設定。可否判断は、①事業の公益性、②事業の継続・発展を保障する人材・団体の成長を重視します。

3) ファンドは、民間資源と公的資源の共同でつくる。公的資源は、民間資源を受け入れる基盤をつくり、民間資源は臨機応変な支援・助成に活用する。

\* 公的負担について、運営費を生み出す「出捐」、事務所および人員の派遣等基盤支援を想定。

\* 支援事業へのサポートは、NPO の中間支援組織・専門家ネットワークがあたる。

4) ファンドが発展成長する仕組みをつくる。①寄付者の意思を大事にし、不断に交流する、②信用ある運営と体制、③支援事業の発展成長への助言指導などがポイント。

\* 一般財団法人で発足し 3 年～5 年で公益財団に転換。資金循環は 5 年～10 年で安定的軌道にのせる。

\* 「新基金」の参考例として、大阪商工会議所が中心となり、大阪府、大阪市とともに 1991 年に設立した「大阪コミュニティ財団」がある。事務所は大阪商工会議所ビル内にあり、スタッフは大阪商工会議所からも派遣している。寄付者の意思に沿って運営される個別基金がおおよそ 200 あり、共同運営されていて、「マンション型財団」ともよばれる。助成金や寄付金は全国・世界から募集し、全国・世界へ助成・寄付しています。

